重点戦略1 「明日へつなぐ」成果と課題

1 目 的

意欲的な若者をはじめとする多様な人材が活躍し、本県農業を力強く支え、明日へつながる農業を展開します。

2 実 績

- ◆ 産地が育成する就農者数　R3～7：85人　[目標値：150、基準年度：３（R1)]
- ◆ 人・農地プランの中心経営体に位置付けられる新たなモデル経営体数
  R7：14経営体　[目標値：45、基準年度：０（R2)]
- ◆ 女性による新事業創出数　R3～7：14件　[目標値：15、基準年度：―（R1)]
- ◆ 農福連携の取組数　R7：244件　[目標値：200、基準年度：165（R2)]



地域の話し合いの円滑化に向けたファシリテーション研修

3 これまでの主な取組及び成果

（1）地域農業を持続的に支える仕組みづくり

- ○ 集落を越えた広い地域で営農を担う「とちぎ広域営農システム」の推進に向けた支援体制の構築や研修会等の開催により、広域的な営農モデルの設置が進んだ。（７地域での設置に加え、早期実現を目指す 10 地域を選定）
- ○ 人・農地プランの実質化地域において地域計画が策定された。（R7：492 地域）
- ○ 担い手の経営力強化に向けた研修会の開催や専門家派遣などの支援等により、農業法人数が増加した。
  （R2:656 法人　→　R6：847 法人）
- ○ 障害者福祉施設における農作業受託を中心とした農福連携の推進により、取組が拡大した。
  （R2:165 件　→　R6：225 件（R7:244 件））



農福連携によるいちごの箱折り作業

（2）意欲ある人材の参入促進

- ○ 就農支援サイト「トチノ」の開設（R4）やオンライン就農相談、オーダーメイド型の就農支援等の取組により、R7 年度時点で青年新規就農者（45 歳未満）を 1,151 名確保した。（R７年度目標の約７割）
- ○ 農業大学校「いちご学科」の設置（R3）や、VR 等のデジタル教材を活用した高大接続教育の開始（R3）等により、次世代の農業人材の育成体制を強化した。



就農支援サイト「トチノ」

4 主な課題（対応の方向性）

- ○ 地域を支える持続可能な土地利用型経営体の確保に向けた経営力強化や法人化の推進
- ○ 市町等と連携した広域で営農する担い手組織の育成と、担い手が不足する地域への農業法人の誘致や企業の農業分野への参入支援
- ○ 農外・県外からの新規就農者の確保に向けた情報発信や受入体制の更なる強化



農大いちご学科ポスター